



学校だより

令和7年 10月 1日

東京都立村山特別支援学校

校長 阿部 智子

〒208-0012

武蔵村山市緑が丘 1460 番地 1

電話：042-564-2781

「急に季節が動いたかのような、過ごしやすい10月となりました」

9月後半になると、朝晩は過ごしやすくなりました。こういう季節の変わり目の微妙な気温の変化が、大人にとっても子供にとっても、体調に影響します。気を抜かずに、日々の体調の管理をしっかりとしていきますので、御家庭でも何か変化がありましたら、小さなことでも構いませんので、連絡帳に御記入をお願いします。

【第2回学校公開 9月12日（金）】

第2回の学校公開は、広く外部向けに行いました。今年度は、70名弱の皆様にご参観いただきました。お忙しいところ、本当にありがとうございました。本校は、仮設校舎であるため、特別支援学校であっても災害時に福祉避難所とはならず、新青梅街道の交差点の方から眺めると、地域の皆様に肢体不自由特別支援学校であることを御理解いただくのも難しいような、一見、四角くて巨大な倉庫のような建物です。

感染症の影響も少なくなりましたので、少しでも、子供たちの授業の様子を御覧いただき、学校で子供たちがどのように学習に取り組んでいるのか、教科指導のカリキュラムはどのように組まれているのか、御理解いただけると嬉しい限りです。

皆様にお集まりいただいた場所は、体育館ではなくて多目的室ですのでスポーツをするには少し狭いですが、体育の授業を行ったり、始業式や終業式、また近隣の小学校・中学校の児童・生徒の皆さん、高校の生徒さんたちが交流に来てくれたりできる場所です。構内に出入りする大小、様々なスクールバスの数も26台と多くて御迷惑をおかけいたしますが、通学区域6市1町からの子供たちが集まって学習をしていますので、学校公開などの機会をとおして、地域の皆様にも御理解いただけるように取り組んでまいります。



【第6回校内授業研究会 9月19日（金）】



東京学芸大学名誉教授・尚絅学院大学教授 小池 敏英先生、前東京学芸大学教職大学院特命教授 三室 秀雄先生に終日お越しいただき、自立活動を主とする教育課程、知的代替的教育課程の、それぞれ小学部国語の授業、高等部数学の授業を参観していただき、授業づくりについてのお話をうかがいました。東京都では肢体不自由特別支援学校に在籍する児童・生徒の実態把握の方法として「学習習得状況把握表」の活用による小学部から高等部までの一貫した指導の推進が教育課程編成の基本方針になっています。

その学習習得状況把握表（GSH）のコミュニケーションマップを活用して、今もっている力を伸ばしていくには、どのような授業をすればよいのか？ということについて興味深いお話をうかがうことができました。

【9月25日（木）水泳指導が無事、終わりました】

仮設校舎での学校生活期間は、大型プールでの指導が十分にできないため、水泳指導におきましては、昨年度は東京都多摩障害者スポーツセンターの施設内プール、2年目である今年度は立川市総合福祉センターの施設内プールを利用させていただいての水泳指導を行いました。御協力いただきました関係の皆様にご感謝申し上げます。

また今年度も構内中庭に大型ビニールプール、小学部低学年用の水遊び用のビニールプールを設置して指導にあたりました。今年は昨年にも増して、暑い日が多く、暑さ指数（WBGT）が高すぎて入水できないということもありました。その教訓から日が高くないうちにということで、登校してすぐ、バイタルチェック、安全に着替えの準備を行い、1時間目の自立活動の時間で入水するなど、指導時間の工夫も行いました。今年度は立川市総合福祉センターになったので、移動時間が短縮されました。校内での活動ができないため、課題点はありますが、今年度も事故けが

等なく、無事9月25日（木）をもちまして今年度の水泳指導を終了いたしました。次年度以降の計画につきましては、さらに指導内容の検討を重ねてまいります。大型プールがないことで、逆に教職員が一致団結して、外部施設利用のマナーや、外部施設での水泳介助泳法などの技術力を身に付けないと、いつ事故が起こるかわからないということへの緊張感も高めることができました。暑い夏でしたが、笑顔の子供たちを見ることができました。水泳指導のための御準備等、御理解・御協力ありがとうございました。

【9月25日（木）ディズニーアンバサダー来校】

2017年に村山特別支援学校の当時の旧校舎に、ディズニーアンバサダーが来校したのだそうです。それから本校舎が建て替えのため、この仮設校舎に移転してきて2年が経ちましたが、今年2025年に仮設校舎にも魔法がかかり、ディズニーアンバサダー味方と（みかた のどか）さんとミッキーとミニーがやってきました。多目的室に集まり、児童・生徒一人一人に挨拶をしていただきました。本校では中学3年生の修学旅行でディズニーランドに行っていますが、これほど近距離でミッキーとミニーに関わることはできません。緊張する小学部児童、満面の笑顔の中学部生徒、照れながらの高等部生徒と、各学部の児童・生徒の表情は様々でしたが、会場は非常に暖かな雰囲気に包まれました。車いすの高さにしゃがみこんでお話を聞いているミッキー、ミニーと、笑顔のアンバサダーに感謝申し上げます。素敵な時間をありがとうございました。

【9月26日（金）道徳授業地区公開講座行いました。】

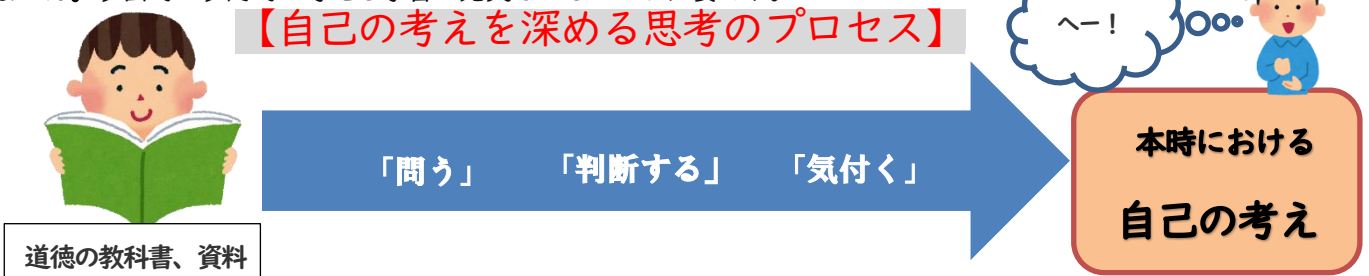


道徳授業地区公開講座とは、学校、家庭及び地域社会が一体となって子供たちの豊かな心を育むとともに、小・中学校等における道徳教育の充実を図ることを目的としていて、東京都教育委員会と区市町村教育委員会が連携して、平成10年から都内公立小・中学校等で開催しているものです。今年度は本校学校運営連絡協議会委員長、元墨田特別支援学校校長 朝日 滋也様に講師としてお越しいただき「日々の生活から考える道徳22の内容項目～子供のための豊かな心を育むためにできること～」をテーマにお話をいただき、授業者への講評もしていただきました。また、副籍交流先の小学校の先生も授業を参観してくださいました。

従来の「道徳の時間」は、読み物の登場人物の心情理解に偏り、主人公の気持ちを考えさせ、それを書かせたり、発表させたりする授業になっていたことが課題とされてきました。それでは「国語」の読み取りの授業と混同されやすいからです。

「特別の教科 道徳」では、自ら、考えざるを得ないテーマを投げ掛けたり、人と話をするテーマを設定して問い掛けたりして、**児童・生徒が自分なりに考え、言葉にすることが大切なのです。**それをとおして、自ら考えを深め、自分自身の問題と捉え、向き合う、「考える道徳」「議論する道徳」に取り組んでいかななくてはならないのです。教員としては「考えに足る発問」をして「他者と話して言葉を整理する道徳」に取り組んでいかななくてはなりません。多面的・多角的に考える学習を充実させることが必要です。

【自己の考えを深める思考のプロセス】



児童・生徒が問題について主体的に自分との関わりで「問い」続ける中で、他者と話をして、自分の「判断」をもち、へーそうなんだ！と「気づき」に至るまでの思考のプロセスを支えるのが「主体的・対話的で深い学び」の視点です。特に児童・生徒が新たな「気づき」に出会うためには「深い学び」が必要です。そのためには、「明確な意図に基づいた授業構想」とともに、児童・生徒の「自己の考えを深める思考のプロセス」を意識した指導の実践が大切である。（道徳科 指導と評価のガイドブックより）とされています。

村山特別支援学校では「特別の教科 道徳」の時間で自分の考えを深める思考のプロセスを大切にしていきたいと考えています。御参観いただいた皆様、貴重な御意見ありがとうございました。